

第7回 静岡市ものづくり産業振興審議会 会議録

- 1 開催日時 平成25年9月4日(水) 午後3時30分から午後5時まで
- 2 開催場所 ツインメッセ静岡中央棟4階 402・403会議室
- 3 出席者 【委員】
二渡会長、本多委員、実石委員、杉山委員、山梨委員、松永委員
(欠席 秋元委員、内海委員、太田委員、藤田委員、鶴田委員、中村委員)
【事務局】
大場経済局長、三輪地域産業課長、森参事、吉川統括、河合統括、
頭師副主幹、佐藤副主幹
- 4 傍聴者 一般傍聴者 なし、新聞記者 なし
- 5 開 会 三輪地域産業課長
- 6 あいさつ 二渡会長

皆様、お久しぶりでございます。本日は、我々の任期最後の審議会にご多忙の中をご出席くださいまして、誠にありがとうございます。この任期2年間において、皆様には様々な懸案事項などに対して、ご審議ご提言をいただきました。また、今回は最後の審議会であるとともに、今後の審議会における協議検討につなげるための引き継ぎの機会でもあります。そのため、皆様から事前にご意見等をいただいた次第であります。次期の審議会が、本市ものづくり産業の振興に向けて、有効かつ有意義な議論を行えるように、最後まで皆様のご理解ご協力をいただきたいと思います。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。それでは、審議に入る前に、会議の傍聴及び公開に関しまして確認させていただきます。事務局、ご説明をお願いいたします。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

静岡市では、附属機関の設置及び運営に関する指針に基づきまして、附属機関の会議は原則公開となっております。今回の会議につきましては、非公開事項となる情報は含まれておりませんので、公開としてよいか、皆様にお尋ねしたいと思います。いかがでしょうか。

【二渡会長】

皆様、いかがでしょうか。公開としてよろしいでしょうか。

【各委員】 了承

【二渡会長】

特にご異議がないようでありますので、公開としたいと思います。よろしくお願いいたします。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

引き続きまして、審議の経過により非公開とすべき事項が生じましたら、その都度、その旨をご決定いただくこととなりますので、よろしく願いいたします。また、会議録については、公開の手続きを踏むこととなりますので、事務局で会議録を作成した後に、二渡会長ともう一人の委員の方にご署名をいただきたいと思います。本日の会議録署名人につきましては、松永委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【松永委員】 了承

(事務局：森地域産業課参事)

只今のところ、傍聴者はおりません。この後の議事進行は、二渡会長に行っていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

【二渡会長】

それでは、議事に移りたいと思います。次期のものづくり産業振興審議会に対する期待や要望などに関しまして、先般、皆様からご意見等を頂戴したところであります。本日は、この点に関しまして、ご意見を交換しながら協議の進展を図りたいと思います。では、事務局から簡単に要点をご説明いただきたいと思います。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

皆様のお手元に、A4版の縦で次期静岡市ものづくり産業振興審議会への要望及び引継等についてという資料があるかと思いますが。12名の委員の内、7名の方から貴重なご意見等をご提出いただきました。皆様にはお忙しい中をご対応くださり、誠にありがとうございました。本来であれば、各委員のご意見等を一つずつご紹介すべきところではありますが、会議の時間もありますので、要点をまとめましてご説明申し上げたいと思います。まず、基本計画に記載された事業を更に推進するためにも、財源確保が重要ではないかのご意見であります。二つ目としては、ものづくり審議会の運営そのものについて、審議会委員と事務局の役割分担を明確にする等の点を含めて、再考する必要があるように思えるのご指摘であります。また、大枠での議論だけでなく、何をどのような目的に沿って協議するのかなど、対象分野を絞り込み、建設的な議論を更に重ねていく取り組みが必要であるのご意見をいただきました。加えて、ものづくり産業の振興を図る議論については、多様な産業分野によって構成されている点を踏まえるとともに、社会経済情勢という背景との相互関係を含めて進めていくことも重要な視点ではないかというご指摘を頂戴いたしました。最後になりますが、試行的に地域産業課が所管する22事業について、審議会委員の皆様のご協力のもと、6つの部会を設ける中で事業の進捗管理を行ってきた点に幾つかのご意見等いただきました。具体的には、部会の委員と事務局の役割分担に加え、何をどの程度まで議論するのかという点も明確化を図ってほしいとの要望でありました。それから、前述の役割分担のほか、部会の委員と事務局との意思疎通を十分に図り、円滑な議論に資していくことも重要ではないかというご意見でありました。委員の皆様からご提出いただきましたご意見等について、簡単ではありますが、大まかにご紹介をさせていただきました。一つひとつのご意見等については、それぞれのお立場に基づいた深い視点のもとで、次期のものづくり審議会に提供された資源であるように思っております。今後、新たな審議会が任期の更新とともに組織され

ますが、そこでの議論展開に役立てていきたいと考えております。皆様、本当にありがとうございました。以上であります。

【二渡会長】

ありがとうございました。それでは、この後は委員間で意見を交換したいと思います。皆様のご意見等については、この資料にまとめられておりますので、順番にご意見等のポイントや強調したい点などをお話いただきたいと思います。私は、取りまとめを含めて最後に申し上げたいと思いますので、本多副会長からお話をいただければと思います。

【本多副会長】

この2年間、副会長としての職務は会長に頼ることが多く、十分に務められなかったように思います。このことについては、皆様に申し訳ないと思うと同時に反省をしております。私は、地場産業に関連する静岡特産工業協会の会長として、伝統工芸創造部会に所属しておりますが、これまで会議の開催が1回に止まっていることを懸念しております。任期満了に伴いまして、今後、新しい委員の方々が部会に従事することになるとは思います。会議の開催方法などを検討するとともに、部会そのものが継続されるようお願いしたいと考えています。それから、ものづくりとは、皆様ご承知のとおり、非常に幅広い分野におよぶ概念でありますので、この審議会で議論を重ねることにあたっては、ポイント等を十分に絞り込んだ上で議事等を進めていく必要があるように感じています。今回、事務局から意見の提出書式をいただき、何をどのように記載すれば良いのかと、ものづくりの幅広さから大いに悩みました。例えば、中小零細を含めた地場の企業、或いは、従業者数20人以下の事業所など、事業を営む対象一つを取っても、様々な事柄が頭に浮かびます。また、1人でも多くの従業者を雇用して税収を少しでも引き上げるべきなのか、はたまた、税収などは余り気に留めず、地域の文化等を後世に残すことを主眼に捉えればいいのかなど、書式を前にして考え込んでしまいました。特に、地域の文化に深く関連する伝統工芸については、以前に8業種に定めた経緯を伺ったことがあります。現状を捉える中では、今後の在り方を踏まえて再考が必要なのかもしれないという印象を、今回の機会を通じて感じたところであります。雑駁なお話で申し訳ありませんが、次期の審議会委員の皆様には、今、申し述べた点などを踏まえて審議等にあたってほしいと思っています。

【二渡会長】

ありがとうございました。議論は後ほどとし、まずは各委員の方からご意見をご紹介いただきたいと思います。次は、実石委員からお話をいただきたいと思います。

【実石委員】

本多副会長と重なるところが多くありますが、ものづくり産業を考えた場合、業種や規模などから、その主体は零細、中小、大企業と区分されると同時に、非常に広範囲におよぶ産業であると認識しています。そのような中、提言や戦略を限られた時間の中で作り上げていくことに難しさを感じた2年間であったように思いますし、私自身、地場産業の家具工業組合を代表して出席しておりましたので、その視点や立場から意見等を述べてきました。それから、次期の基本計画で想定される計画期間は、8年とお聞きしておりますが、この世の中、産業構造等を含めまして、3年で様変わりする時代であると個人的には考えております。よって、8年と言わず、中期の3

年間で基本計画を持つことが望ましいのではないかと思います。出来れば、短期間で施策に取り組めるスタイルにして、残すべき分野等は残していけるような計画運営が良いのではないかと考えています。もう少し申し上げますと、このように迅速かつ的確な対応を図らなければ、本市の地場産業が残らず無くなってしまふ危惧を抱くような状況にあることを、改めて皆様にご認識をお願いできればと思います。さらに、体力のある企業は生き残っていけると思いますが、大半がそこまで至っていない中小零細の企業でありますので、そのような企業が3年後、5年後を見据え、展望が描けるような計画づくりに努めていただければと考えています。

【二渡会長】

ありがとうございました。次に、松永委員からお話をいただきたいと思います。

【松永委員】

私は、教育研究機関という立場で参加させていただきました。皆様のように日頃から、ものづくりに従事している訳ではないので、次期審議会への引き継ぎにあたっては、資料にあるとおり、要望や意見を記載させていただきました。私自身、産業の継続的な進展を考えれば、後継者の育成が重要なポイントであり、教育分野が深く関連するとの認識から意見等を述べていこうと考えてきました。ただ、この2年間を振り返りますと、本多副会長や実石委員が述べられたとおり、ものづくり全般を捉えますと非常に範囲が広く、どの分野に特化した後継者の育成を考えればいいのかと思ひ悩みました。また、この機会を通じて感じたことは、どのように学生をものづくり産業に誘っていくのかという点に加え、学生以外の若者をどのようにすれば、ものづくり産業へ結び付けていけるのかということも考えさせられました。一方、大企業であれば、社内教育の充実とともに、優秀な人材を自ら育成できるものと思われませんが、それ以外の企業においては、人材の育成は難しく、大きな負担になっていると思われまふ。このことから、行政が若者を主体として、企業のニーズに基づく人材をマッチングさせ、企業の人材育成教育を手助けするような施策の展開が必要ではないかと感じています。それから、部会運営ではありますが、行政機関での取り組みとしては珍しく、興味関心を持ったところではありますが、初めての試みということもあり、部会員と事務局の意思疎通などに関して、相互に満足のいく取り組みには至っていません。ただ、この部会運営が十分に生かされれば、審議会とは違う側面から静岡市のものづくり産業への支援を検討できるのでとの可能性を感じていますので、次年度においても、改善を試みて継続的な運営に努めてほしいと思っています。2年間、お世話になりました。ありがとうございました。

【二渡会長】

ありがとうございました。それでは、杉山委員、お願いいたします。

【杉山委員】

この2年間の審議会ではありますが、急に業務が重なることも多くあり、半数程度しか出席できなかったこと、また、今回の次期審議会への要望等についても、展示会等の準備もあり、事前にご提出できませんでした。まず、この点を皆様にお詫び申し上げたいと思います。私は、伝統工芸産業に身を置く立場から、この審議会に出席してきましたが、ものづくり産業は広範囲におよぶため、正直、審議会では何をどのように考え、取りまとめていったらよいか悩みました。加え

て、事務局は、必要に応じて審議委員に意見を求め、それを取りまとめ、次の審議会に資料として出されることが多くありました。それらを眺めますと、ある程度のものが既に出来上がっているような印象を持ちましたし、そのような資料が事務局先行のもとで出来上がるのであれば、審議会の位置付けはどのようなものになるのかという点について、自分なりに思い悩みました。また、私が所属する伝統工芸創造部会の運営についても、次期に引き継がれていくと思いますが、今期の開催は1回だけだったので、その後の部会運営に懸念を感じています。

【二渡会長】

ありがとうございました。次は、山梨委員にお願いいたします。

【山梨委員】

審議会に臨むにあたり、静岡市のものづくりとは何かということを考えてきたつもりです。静岡市のものづくりは、葵区、駿河区、清水区と地理的に広範におよぶとともに、多種多様な業種がひしめき合っているような様相があります。このような中、基本計画等の施策を考えるにあたっては、総花的な仕上がりにするのか、それとも、実石委員が言われたとおり、ポイントや期間を絞り込んで対応を図るのか、いろいろな角度から考える必要があるように思えます。私自身は、問題を抱え、事業展開に苦慮している分野を対象を定め、そこから施策等の展開を図ることが望ましいと思いますし、そのようにすべきだったのかなと振り返っています。この点に関連することとして、静岡市役所は、残念ながら、葵区と駿河区にしか目が届いていないように思えるところがあります。であるならば、先ほど3年とか、8年とかという計画期間が話題になりましたが、この間は葵区、次の間は駿河区、その次の間は清水区というように、予め検討した業種分野を対象に、施策を展開するという方法を選択してもいいのではないかと感じることもありました。最後になりますが、基本計画に盛り込む施策などについては、多様なものが列記されていることから、メリハリが感じにくく、どちらかという、計画そのものがぼやけてしまっている印象を持っています。

【二渡会長】

ありがとうございました。皆様から、一通り、ご意見を頂戴いたしました。最後に、私の意見等を簡単に述べたいと思います。まず、私が部会長を務める調査研究部会のことからお話したいと思います。この部会では、産業構造の将来予測や経済波及効果の観点から、静岡市のものづくり産業を考えてみるという取り組みを行ってきました。これは、産業振興が図られた右肩上がりの直線と何も施策を打たない下降曲線との乖離を埋める施策を模索するとともに、将来動向の予測を含めた調査研究であります。簡単に言えば、経済企画庁や大手企業などが取り組んでいる産業の将来予測について、静岡市でも同様に取り組み、施策を講じない事態を想定する一方で、いかなる施策で対応を図り、両者の間に生じたギャップをどのように補っていくのかというものであります。また、一度きりのシミュレーションでは不確かなことも多いと思われれます。そのため、8年間という計画期間においては、毎年度の検証に努め、精度を引き上げていこうとするものであります。それから、様々な分野に関連する行政の立場からは、どのような分野を対象に施策を実施すれば、市内の別の分野、或いは市域全体にどのような波及効果がおよぶのかという研究も、地味な取り組みではありますが、併せて取り組んでいけませんと、行政として施策を実施する意味に加え、実効性が明確にならないという側面があります。

次いで、理工系大学の誘致であります。政府が打ち出している成長分野や民間シンクタンク等の予測を踏まえれば、この後の成長分野は医療や健康に関する産業であることは確かなところであると思います。また、その中心に座し、牽引役として活躍が期待されるものが、大学の医学部と工学部の研究機関であろうと考えられ、すでに各地域では学部間の連携のもとで、多様な研究に着手しています。ただ、静岡市には残念ながら、医学部も工学部もないために、そのような先進地域からは遅れを取った状態に置かれています。つまり、理工系大学の誘致の必要性とともに、今から誘致等に関する取り組みを始めなければ、更に誘致困難な状況に陥ることが明らかであるとの考えている訳であります。

それから、製造現場の改善支援事業であります。これは市からの委託事業として商工会議所が、中小零細企業を対象に取り組んでいるものであります。具体的には、中小零細企業が抱える課題等に対して、大手企業出身のエンジニアが現場に出向き、その解決に向けた方法等の提案と実践によって、中小零細企業を支援するものであり、過去3年間で30件の企業の相談に応じています。支援結果としては、相談企業の収益力の向上が図られるなど、静岡市の産業振興支援施策の成功例と言っても過言ではないと思っています。ですから、現在、年間10件の支援件数を倍の20件に増やして取り組めば、10年で200社の改善が図られることになるため、本市の産業基盤の強化に結び付くものと考えています。また、この支援事業は、大手企業を勇退したエンジニアのOBに活躍の場を提供するとともに、市内に数多くいる優れたOBの人材活用にも通じることから、地域、或いは、地元の産業界にとっても有益な取り組みであると思います。

さらに、伝統工芸に関しましては、その保存と育成に関して、何としてでも展望を描きたいとの思いがありました。そして、その後の伝統工芸創造部会等での議論や杉山委員との意見交換等を通して、その方向性が見えてきたように思えます。現時点では、具体的な成果までは至っておりませんが、現状を継続させるのではなく、他地域よりも競争力のある静岡市ならではの伝統工芸を保存すると同時に、育成を図る以外に道はないように感じています。この点については、市から提案を受けるのではなく、業界が自主的に提案に取り組むしかないと思いますし、他地域の事例から見ても、自助努力の積み重ねによって、静岡市ならではの逸品を生み出していくしかないように思えます。ただ、残念ながら、この2年間では、業界にそのような機運を感じるものが少なかったように思えますので、自助努力に向けた姿勢を醸成させるような対応を図り、伝統工芸の展望を明確に描けるように強くお願いをしたいと考えています。さらに、静岡市の伝統工芸界の現状は、端的に言えば、どのようなものを、どの程度生産し、いかなるルートで販売していくのかなどの市場調査等を含め、全てが職人に委ねられている状況にあるということであり、以前には、静岡市にも伝統工芸品を取り扱う問屋があり、マーケットにおける多様かつ有益な情報が職人に提供されることで、伝統工芸品の生産と販売が成立し、適切なかたちで流通していたように思います。ただ、現在では、本来、問屋が行っていた機能そのものを職人が背負わなければならない状態にあるため、生産に専心できない憂慮する事態にあると考えています。この点については、京都や金沢の事例を見るまでもなく、伝統工芸品の生産に打ち込める環境整備を、どのように仕立てていくのかということを実際に捉えるとともに、具体的な手立てについて、業界を主体に審議会と行政が歩調を合わせて考えていかなければならないと思っています。

その他、この審議会は、ものづくり産業の振興に関する行政のサポート機関として、皆様からご意見等をいただいておりますが、経済活動は日々変動著しい状況にありますので、政府の成長戦略等の動向を見据えながら、時流に則した対応を的確に図ることも、非常に重要なことと考えています。これまで申し上げたことについては、次期のものづくり産業振興審議会において、真

摺に検討を加え、産業振興のサポート機関としての役割を果たしていただきたいと思っています。以上、私からの補足を終えますが、その他、皆様からご意見などがありましたら、引き続き、協議を重ねていただきたいと思っています。

【実石委員】

皆様のご意見は、全くそのとおりだと思います。ものづくり産業の振興に関して、国レベル、県レベル、市レベルで、それぞれ異なることを取り組んでいるように思います。どうも、国レベルでは収益性が高い企業を対象として、また、県レベルでは光や薬などに関する企業を対象とされているような傾向を感じます。そのような分野等と中小企業との関係を考えてみますと、下請け孫請けという段階では関わりがあらうかと思いますが、多くの中小企業にとっては、余り深い関係にあるとは言えないように認識しています。このような状況がある一方で、市レベルでは何をどのように取り組むかという点が、クローズアップされるべきではないかと思っています。つまり、国や県レベルで実施していることと同様の施策について、市レベルで取り組む必要性は低く、地元の中小企業にとって分かりやすい支援施策を協議していく必要があるものと考えています。一例としては、先ほど、会長が言われた現場改善事業が、まさしくそれに該当し、地元の中小企業にとって直接的に支援が施される事業として、十分な機能を発揮していることが挙げられます。このようなコンパクトな支援施策を、次期ものづくり産業振興審議会では検討していただき、提言書のようなものに取りまとめれば、それに目を通した中小企業の認識は、国や県のそれとは異なる市レベルの施策として受け止めてくれるのではないのでしょうか。それから、私は中央会の関係で現場改善に取り組んでいますが、あれは1～2か月の間隔をおきながら、継続的に取り組むことで効果が上がる事業であります。また、この事業は商工会議所や中央会で同様に取り組んでいることも認識できましたので、そのようなサポート事業が地元の中小企業に広がっていくように、普及啓発に向けた仕立てづくりを考えていくべきではないかと、先ほどの会長のお話を伺いながら考えておりました。

【二渡会長】

ありがとうございます。実石委員が言われた商工会議所の現場改善事業については、私が担当委員会の長を務めておりますので、先ほどの説明と重複する部分もあらうかと思いますが、もう少し補足説明をさせていただきたいと思っています。現場改善事業は、商工会議所が市から委託されて実施している事業でありまして、実石委員も中央会での事業に取り組まれているように、全国各地で同様、或いは類似の事業が多数営まれています。ただ、十分な事業成果をあげている取り組みは少なく、静岡市の商工会議所で実施している事業については、稀有な成功例と認識しています。成功要因と考えられることは、商工会議所の事務局員が、日々地元企業を訪問し、課題や問題等の掘り起こしに努めていることが挙げられます。また、そのような幾多の課題等を迅速に委員会に諮り、その場で、どのような対応を誰に執り行ってもらうのかを即断するなど、スピード感をもって現場改善事業に着手しています。具体的には、三菱電機、日立製作所、そして、地元の比較的大手の企業で活躍したエンジニアを中小企業に派遣し、自社で自立的に課題等への対応を図れるレベルまで指導や助言を行っています。ここで重要なことは、中小企業が抱える課題等の見極めと的確なエンジニアの派遣に尽きる訳ですが、そのようなマッチングを成功させるためには、関係者の力量等をしっかりと見定める眼力が必要になります。静岡市の取り組みは、こうした見極めのもとで、適切なマッチングが行われているため、事業が円滑に進展し、相談企業

の収益性の向上をはじめ、様々な効果創出に結実していると考えています。

【実石委員】

ここで留意しなければならない点としては、中央会の現場改善事業は補助事業であるということです。私が所属する家具工業団地にも、以前、日立製作所のOBがお見えになり、様々なご指導をいただきました。ただ、補助事業の制約から、年間1回の訪問指導と限定されていたため、現場改善の効果が一定の域に止まってしまったように思える経験をしました。補助事業ですから、予算上の制約は仕方ないようにも思えますが、年間の訪問回数をもう少し増やしていただければと思ったことがあります。

【二渡会長】

現在、静岡商工会議所で実施している現場改善事業では、月1回程度、企業を訪問しています。また、現場で取り組んだ経過や成果を発表する場として、年1回、現場で指導助言を行ったエンジニアと相談企業の経営者による報告会が開催されています。ちなみに、相談企業の経営者とお話をしますと、改善に向けた取り組みに苦労したものの、結果的に会社の収益性が確実に向上されていると、皆さん異口同音に話されています。

それから、この審議会は、ものづくり産業の振興に向けたサポート機関として、多様な事項を議論していく必要があります。また、それぞれのお立場での研鑽と、それに基づくご見識のもとで、これまでの間、多様な議論に参画されてこられたと思っています。先ほど、皆様のご意見を拝聴し、十分な意見や提案に取り組めなかったとお話された方もありましたが、ものづくり産業の振興に関して、全ての事項を網羅的に把握し、適時的確にコメントを寄せられる方は、誰一人としていないと考えていますので、皆様のご見解は致し方ないものと認識しています。別の言い方をすれば、どのような事項を議論しても、それぞれのお立場や見識に基づいて考え、ご意見を述べていく訳ですから、切り口が異なる以上、ある程度の合意形成は出来たととしても、賛成もあれば、反対も出てくるということになります。結果的に満場一致で議論を終えることは少ないものと推測されますが、その一方で、我々は静岡市の附属機関として、静岡市のものづくり産業の振興に資する議論に従事していることを認識しておく必要があるように思えます。つまり、市は産業振興の全般を対象に様々な取り組みを進めていかなければならない行政としての宿命を背負っており、そのような行政の附属機関の一つで、我々は議論を重ねているという立場を、各委員のお立場とともに踏まえなければならないのではないかと考えています。この点について、山梨委員、いかがでしょうか。

【山梨委員】

会長がお話になられたことは、その通りだと思います。市全体の立場と各委員のお立場にバランスを持たせて議論していかなければならないことは、本当に言われるとおりのことと理解しています。しかし、これまでの間、事務局から資料をいただいて議論してきましたが、個人的には、何か焦点がしっかりと定まっていないような気がしています。もう少しお話をすれば、市として、静岡市のものづくり産業をどのようにしたいのかという点が不明確だったような感があります。先ほど、実石委員が言われた国レベル、県レベル、市レベルでの施策展開の違いにも関連しますが、例えば、家具や伝統工芸などの地場産業を支援する施策として、このような事業を展開したいと考えているが、審議会として、どのように考えるのかという議論があっても良かったのでは

ないかと思います。そのような意味から、市が支援の対象と具体的な支援施策を絞り込み、審議会に諮るようなプロセスがあればと考えています。この点については、市の立場を理解した上であえて申し上げますが、市の取り組みが総花的になり過ぎていることが、具体化や絞り込みに制限をかけている要因のように思えます。次期基本計画の策定案を考える中では、例えば、市が後継者育成をテーマに掲げ、3年程度の期間で業種毎に対応した具体的な支援施策を練り上げていきたいと意思を明らかにし、審議会とともに取り組むことも手段の選択としてあっても良いのではないかと思います。

【二渡会長】

山梨委員が言われたことは、具体的な支援施策がケーススタディーのように、イメージしやすいかたちで進めた方が良いということでしょうか。

【山梨委員】

その通りです。

【二渡会長】

それでは、関連して、杉山委員いかがでしょうか。

【杉山委員】

先ほどもお話ししましたが、事務局から様々な資料が数多く送られてきた中では、どのように、何から手を付けて考えていけばよいのか悩みました。私は、伝統工芸に関するコメントについては、事務局に提出しましたが、それ以外の分野のほか、市全体に関わる内容については、思うように手が付けられない状況でありました。また、審議会でも、個別具体的な議論も含まれていましたが、どちらかと言いますと、市全体の議論に主体が置かれていたように思えます。ですから、今後の審議会においては、議論の対象を絞って協議を進める方が良いように思います。

【二渡会長】

ありがとうございました。杉山委員のご意見に補足を加えれば、事務局は審議会でも議論した結果に基づいて、かなり忠実に資料を作成し、取りまとめていると思います。

【杉山委員】

会長が言われることに関しては、十分理解しています。ただ、伝統工芸に関する資料に目を通してきて感言を言えば、忠実でない部分も見受けられるということをおし上げておきたいと思えます。特に、伝統工芸に関連する部分については、この程度の取りまとめに止まっていると感じたこともあります。

【二渡会長】

私は会長として、自身の立場に加え、全体を俯瞰する立場も併せ持っていますので、その観点から事務局における資料の作成などについて申し上げますと、事務局は各委員から出されたご意見のフォローを含め、資料の作成などに努めていると思えます。一例を挙げれば、審議会の会議録がありますが、皆様ご承知のとおり、会長と他委員1名が署名をすることになっています。仮

に、事務局の作成に誤りがあれば、私はサインしませんし、他1名の委員の方も同様に署名しないと思います。しかし、これまでそのようなことは1度も無かったですよ。

【杉山委員】

私の言い方が良くなかったのかもしれませんが、事務局が一方向的にいけないとお話している訳ではなく、伝統工芸に専念する私の立場からは、他の分野が広すぎて見えにくいいため、事務局によって資料の作成が進められてしまっているような印象を持ったということでもあります。

【二渡会長】

本多副会長、杉山委員のご発言を拝聴していると、審議会において、伝統工芸に関する議論をもう少し活発に展開しなければならないですね。

【杉山委員】

そのように伝統工芸分野を捉えていただくことは非常にありがたいことと思いますが、私が申し上げたいことは、審議会で議論する事項を絞り込んでいただきたいということでもあります。

【山梨委員】

例えば、地場産業を議論の対象とするなど、ものづくり産業の振興に向けた何らかのテーマを設けた上で、議論を進めてほしいということでしょうか。

【杉山委員】

私は、金属機械でも、地場産業でも構いません。加えて言えば、少しずつ議論の進展を図ってほしいとも思っています。

【本多副会長】

静岡市の地場産業を考えても、家具、サンダル、駿河漆器、駿河竹千筋細工など、幅広い分野におよんでいます。そのような地場産業の出荷額を見ても、静岡市全体からすれば、それほど大きいとは言い難い状態にあります。こうした多様な地場産業を対象として、審議会での議論を想像しても、思うように結論が導き出せるのか懸念を感じざるを得ません。また、地場産業に対する議論が十分に組みこめるか否か不安を覚える中で、市全体のものづくり産業を議論することには、正直なところ、大きな難しさを感じています。

【山梨委員】

絞り込みを行うことで、取り組んだ支援事業の成果が得られやすくなるとともに、誰もが見やすい状況を作り出せるのではないのでしょうか。

【松永委員】

委員に就任した際、この審議会は静岡市のものづくり産業の振興を図る条例に基づいて設置されている機関であると伺っています。この2年間は、静岡市で初めて策定された基本計画の案を検討してきた訳ですから、議論が広範囲におよぶことも仕方なかったのではないかと思います。また、審議会である以上、行政課題等の検討を諮問され、その後に答申していくような機関とし

ての性格は否めないと思います。それから、現行の基本計画には、計画期間が定められていますので、今後、その期間の満了を迎える前の段階で、次期の基本計画の策定に向けた議論が審議会で行われていくものと思います。そこでは、現行の基本計画をベースとした議論とともに、事務局から単発的に絞り込まれたテーマを審議会に投げ掛けて、集中審議のようなかたちで進めていくことを考えてみてはいかがでしょうか。

【二渡会長】

皆様、ありがとうございます。皆様のご意見は、2つの点に集約されるのではないのでしょうか。1点目としては、審議会の議論が広範囲におよぶこと、これは、静岡市の産業構造を反映しているとも換言できると思います。そのような多種多様な分野を包括的に議論してきた経過がありますので、ポイントを絞り込み切れていない散漫とした議論のもとで、どこかパノラマのような印象を皆様感じてこられたのではないかと思います。2点目としては、このような状態を回避するためにも、審議会での議論にあたっては、多くの課題等の中から議論すべき事項を選択し、審議会の審議テーマとして投げ掛けてくれれば、手応えのある議論が行えたのではないかという見解であったように思います。

私は、皆様のご意見はもっともなことであると考えます。しかし、その一方で、計画等の全体に関わることの取りまとめに際しては、踏まえておかなければならないことが一つあると思います。それは、審議会において、ケーススタディー的に個別の議論を行うことがあっても構わないと思いますが、それだけに終始するのであれば、あえて審議会でなくてもよいのではないかという見解であります。これにより、基本計画のような総合的なプランの審議をどこの機関で行えばいいのかという見方も、一方で出てきてしまいます。やはり、市全体に関わる議論については、審議会の委員として、任期中は各自で勉強に勤しみ、負託された市民の役割に答えられるよう努めなければならないとの思いを持って、私はこれまでの間、委員としても、会長としても、取り組んできました。それでも、全体の議論に関しては、私自身、正直わからないことが多くありますが、自分なりに努め、理解がおよぶ範囲で議論に参画するしかないと自覚してきました。

そして、事務局が審議会に対して、個別事業の進捗管理などを議論するための部会を提案し、審議会の了承のもとで、今日まで課題を抱えながらも運営されてきたと思います。私が皆様にお伝えしたいことは、それぞれが散漫と指摘された審議会での議論に対して、個別に設けられた部会における議論を組み合わせることができないのかという点であります。皆様の中からは、部会が1回しか開催されていないと指摘する意見が出されていましたが、その点において、部会開催の必要性を認識するのであれば、部会員の方から部会事務局に対して、2回でも3回でも開催するよう働き掛けることも、我々、審議会委員の役割ではないでしょうか。このことから、ケーススタディー的な個別テーマについては、部会毎に設定して議論すればいいことであって、市全体に関わる項目については、審議会で合意形成を図るような基本的な位置付けといたしますか、住み分けが必要ではないかと考えています。これまでの審議会における議論の散漫化については、私も皆様と同様に感じていますし、だからこそ、そのような状況の改善に向けて何をどのようにすればいいのかという点を皆様とともに考えていきたいと思っています。

この点について、伝統工芸創造部会に所属する私の経験から、若干お話したいと思います。それは、第1回目の部会において、あることを提案させていただきましたが、その後のリアクションが見えないこともあり、次回開催を部会事務局に何度かお伝えしてきました。しかし、今日まで開催されることはなく、今年度は1回の開催に止まってしまいました。そのことについて、

この審議会でお話しても直ちに解決されるものではありませんが、委員自ら部会の事務局に開催を要望していくことしか解決の方法がないように、私は思います。最後に、事務局にお願いがありますが、各論は部会、市全体に関する項目は審議会との区分を基本として、次期の審議会では熱意を持った運営に努めてほしいと思います。三輪課長、よろしくお願ひいたします。

(事務局：三輪地域産業課長)

わかりました。そのように努めたいと思います。

【本多副会長】

会長がお話されたように、委員も熱意を持ってあたらなければなりませんね。

【二渡会長】

この件については、皆様、このような取りまとめでよろしいでしょうか。杉山委員、よろしいですか。次期の審議会委員の皆様には、伝統工芸創造部会を何度でも開催してもらい、静岡市の伝統工芸に関する個別テーマを十分に議論していただきたいと思います。その際、杉山委員にアドバイザーとしての出席要請があれば、積極的に参加していただきたいと思いますが、よろしいですか。

【杉山委員】

業務の都合もありますので、出来るだけ折り合いをつけるようにいたしますが、難しいことも多いと思います。

【松永委員】

理工系大学の誘致に関する事業がありますが、大学関係者の1人として、一言申し上げておきたいと思います。現在、大学の 신설は非常に厳しく、将来ビジョンや大学の経営を含めた見解などが明確に示されていないと認可されない状況にあります。おそらく、静岡市のために大学を誘致しようとした場合には、静岡市立の大学を新設するよう方向転換を求められることになると思います。また、皆様ご承知のとおり、少子化が進み、私立大学では学生数の確保や充足等に真剣に取り組んでおり、現状維持に苦慮している状況にあります。そのため、私立大学を静岡市に誘致したいというお考えは理解していますが、大学側の考え方としては軽々に判断できないところがあると思います。ですから、学部の誘致という観点ではなく、静岡市が理工系大学に望む具体的な項目を検討し、それに協力くださる研究機関等を県内外に求める方が、現実的であるように思えます。

【二渡会長】

この事業は、私が提案したものであります。研究業績を高く評価されている研究者のもとには、多くの方々が集ってきます。そのような研究者を有する大学が静岡市に立地し、そこで勉学に勤しんだ学生が地元の企業に就職すれば、企業と大学の関係を市域内で構築できます。さらに、就職した学生が恩師を訪ねる中で、研究開発等の難題を相談したとすれば、恩師は教え子の課題克服に協力することになるでしょう。現実には、こうした子弟関係が技術革新や新製品等の開発に大きく貢献していますし、私自身も現役時代にそれを実践し、幾多の経験を積み重ねてきました。

これは、私だけでなく、他の社員でも同様であり、今日でも、そうした子弟関係の機能が綿々と引き継がれていると思います。海外の事例では、シリコンバレーがそれにあたり、県内では浜松市が該当しますが、ここではまさしく、今申し上げた人と人の関係を基盤として飛躍的に成長してきた産業形成の過程が認められます。簡単に申し上げれば、困ったときに気軽に相談できる先生が市内の大学にいることと、地元で就職した学生が社内で実力を兼ね備えて成長していくことが重要であり、その人的関係をコアとして様々な課題や問題に取り組んでいくことにあります。残念ながら、静岡市には、このような関係を構築できる環境がないために、今後のものづくり産業の根幹や力量の形成に不安を抱かざるを得ない状態にあるということでもあります。製造業に関する産業振興が図られている地域を全国的に見渡せば、そこには必ず企業と工学部が立地していると同時に、先ほど申し上げたような温かい子弟の確固たる人脈が作られ続けています。参考まで申し上げますと、全国には政令指定都市が20都市ありますが、工学部と医学部を持たない政令市は静岡市だけあります。今からでも、困難を覚悟の上で取り組まなければ、静岡市のものづくり産業における本当の意味での基盤を、かたち作ることができなくなるということでもあります。

【実石委員】

大学を目指す子供を持つ保護者として、子供の将来を考える中では、会長が言われた工学部や医学部には魅力を感じています。県内では、静岡大学の工学部や浜松医科大学が思い浮かびますが、残念ながら、静岡市にはそのような学部が立地おりません。そのため、保護者として、市内の大学に進学してほしいという気持ちが湧きにくい状況にあります。このようなことから、大学の学部だけを対象として思案を重ねるのではなく、中学や高校の段階から地元大学の工学部や医学部に進学するような仕立てを検討することに加え、静岡市に暮らす産業人をどのように増やしていくのかという視点も交えながら、協議を進めていくことも必要ではないでしょうか。実際、私の友人からは、子供の将来を考え、小学校卒業後にイギリスへ留学させたと聞いていますので、大学の学部誘致を論じる中では、このような保護者の考えに基づいた見解とともに、子供から大人に成長する少し長めの時間軸を踏まえて検討を加えていく必要があるように思えます。

【二渡会長】

静岡市と似た城下町である金沢市には、地場産業で活躍する人材の育成を図るために、芸術大学もあれば、職人を養成する大学院クラスの卯辰山工房もあります。やはり、産業振興を図るためには、優れた人材の育成に向けた投資が大切ではなからうかと思えますし、地元にもそのような教育研究機関が立地していることが不可欠ではないかと考えられます。

【本多副会長】

浜松市に静岡文化芸術大学がありますが、その一部を静岡市に誘致することを考えてみてはいかがでしょうか。静岡市立の大学を新設するよりも、効率化が図れるように思いますが。

【二渡会長】

松永委員、私は困難を承知した上で、理工系大学の誘致に関する事業を提案させていただきました。やはり、今、アクションを起こさなければならない理由としては、先に行けば行くほど困難が増幅するものと認識しているからであります。その上で、官民あげて理工系大学をはじめ、工学部や医学部を視野に入れた誘致活動に取り組む必要があると思えます。

【二渡会長】

これまで委員の皆様からご発言いただいた内容については、その都度、整理確認をしてきましたので、ここからは、本日の議論で余り触れることのなかった点のご紹介と意見交換の時間にあてたいと思います。まず、この審議会は、皆様ご承知のとおり、ものづくり条例に基づく審議機関として、行政からの諮問に対して、審議等の結果を答申というかたちでお返ししなければならない責務を負っています。次に、政府においては、アベノミクスと称する経済政策を新たに展開し、成長戦略を具体的に進展させると明言しておりますので、今後の産業構造や産業振興に大きな影響を与えていくものと予見されます。さらに、グローバルな観点からは、TPP交渉等の進捗を注視する中において、第1次産業の農業製品と我々の審議対象であるものづくり分野との連結を図り、新たな付加価値を帯びた製品開発が話題となっています。このように、大きな潮流として社会経済情勢が変化する時代においては、行政当局にも、産業界にも、これまでとは異質な課題や問題を抱えることもあろうかと思われまます。極々簡単に、昨今のものづくり産業を取り巻く情勢を申し上げましたが、次期の審議会では、このような時代の変化に迅速な対応が図れるように、タイムリーな審議事項を審議会で議論できるように、会議運営への配慮を事務局にはお願いしたいと思います。それでは、これまでの議論について、事務局として何かコメントがございましたら、お願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(事務局：三輪地域産業課長)

本日も熱心にご議論いただきまして、誠にありがとうございました。先ほどのご意見にもありましたが、基本計画に記載された事業の進捗管理や個別具体的なテーマの検討については、昨年、事務局から提案させていただいた部会運営の参考とさせていただくと同時に、事務局として反省すべきことが多々あったと考えております。しかし、ものづくり産業の振興を図る上で、審議会で十分に議論しにくい事項をご協議いただく場としては、開催回数が少なかったものの、伝統工芸創造部会の開催に相応の役割を見出すことができたのではないかと考えております。今後は、皆様のご意見等を参考とさせていただきまして、次期の審議会においても、部会運営を継続させるとともに、具体的なテーマ等のもとで議論を尽くしていただけるように努めていきたいと思っております。それから、我々としましては、市域全般のものづくり産業を対象とした条例が制定されたことを受け、市内製造業を網羅した中で施策の展開に努めております。先ほど、3区の間で温度差が感じられるというご意見を伺いましたので、今後は、その点に留意して進捗を図るよう取り組んでいきたいと思っております。また、このような取り組みの推進にあたりましては、今後とも皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

【二渡会長】

ありがとうございました。本日は、大場経済局長が出席されておりますので、ここで、お話をいただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

(事務局：大場経済局長)

経済局長の大場でございます。まず、本日、審議会に出席いたしまして、忌憚のないご意見が活発に出されていることに感心をいたしました。委員お一人おひとりのご意見や審議会としてのお考えを十分に理解いたしました。そして、会長が、最後に取りまとめいただいた次期ものづくり審議会への要望などについては、今後の審議会運営等に参考とすべき事項であると思っております。

二渡会長をはじめ、委員の皆様にご感謝を申し上げます。また、本市の幅広い産業構造について、ご意見が交わされておりましたが、浜松市と比較した場合、その裾野は本市の方が広範囲におよんでいるものと認識しております。本市の産業構造については、伝統工芸、食品、自動車部品、アルミ製品、電子部品などが挙げられ、多様な業種が複雑に混在している特色が見られます。一面、バランスがとれた産業構造であるように見えますが、別の見方をしますと、総花的な幅広い産業構造になっているとも言えるのではないかと考えております。

今後の施策展開を見据えた中では、先ほどの議論のとおり、深く掘り下げる項目は部会で、市全体に関する事項での合意形成などに関しては審議会で議論をいただくなど、役割分担を図りながら、それを上手に組み合わせた対応を進めていきたいと思っております。

それから、皆様の議論を拝聴し、時代変化の速さを改めて認識いたしました。本市には、皆様ご存知のとおり、最上位計画として、計画期間が10年の総合計画が策定されています。計画期間の捉え方については、本日の皆様のご意見を伺っておりますと、もっともなことであると思えますし、自分自身も10年や8年という期間は、時代の変化に則していけないように思えてなりません。仮に3年を期間と定めても、3年後には、当初定めた状況と大きく様変わりしているように思えるとともに、杓子定規の計画であっても、変化への対応が図れないとも考えています。つまり、基本計画は条例に基づいて策定しなければなりません。臨機応変な対応が求められる状況に、どのように対処していくのかという点を考えますと、両者の両立はかなり難しいのではないかと考えております。

ここからは、個人的な見解となりますが、ものづくり産業の捉え方ではありますが、従来であれば、第2次産業に分類されていた訳ですが、例えば、アップルという企業を考えた場合、第3次産業を含む企業ではないかと思えます。要するに、旧来の産業区分という意味付けが薄れてきているなど、産業界同士の流動性が高まっているのではないかと認識しています。そして、海外での生産に目を転じれば、東南アジアやインドという地域における価格競争を思い浮かべますが、その点における競争の熾烈化に巻き込まれますと、収益性がいつまで経っても向上されないと考えられます。そのような競争下で戦わなくてもいいようなノウハウやデザイン等を創出していくことも、ものづくり産業の振興を図る意味では、大きな位置を占めるのではないかと推察しています。また、昨今ではメーカーズと称する個人、或いは少人数で製品を開発し、ネットを通じてヒット商品を創出させる動きが出始めており、大規模な工場施設を市域内に持たなくても、市場で十分勝ち抜いていける状況が作り出されています。

こうした状況から、今後の施策展開を考えた場合、社会経済情勢の動向を踏まえるとともに、皆様方のご意見等を拝聴しながら、商工部全体で対応を図り、市域のものづくり産業の振興に向けて取り組んでいきたいと考えております。また、二渡会長と中村委員におかれましては、昨年、市の産業功労を受賞されましたので、今後も、ものづくり産業の育成や強化につきまして、その卓越した見識や経験をもとに、ご指導ご鞭撻をお願いしたいと考えております。

最後になりますが、皆様方におかれましては、本日が任期最後の審議会となりますが、任期を終えた後においても、本市の産業振興に関しまして、引き続き、ご理解ご協力をお願いしたいと考えております。任期2年間のご尽力に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。私からは、以上であります。

【二渡会長】

大場局長、ありがとうございました。この2年間、我々も初めての取り組みでありまして、市

当局からご覧になれば、力不足を感じたところもあろうかと思いますが、是非ともご寛容くださいますようお願いいたします。これで、本日の議事は全て終了しましたので、最後に事務局から事務連絡がありましたら、お願いしたいと思います。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

事務局からは、特にございませぬ。

【二渡会長】

わかりました。最後になりますので、委員の皆様から何かございましたら、お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

【二渡会長】

それでは、これで審議会を終えたいと思います。任期2年間、会長を務めさせていただきましたが、委員の皆様からは力強いサポートいただけてまいりました。会長として、皆様に厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

(事務局：三輪地域産業課長)

皆様、本日も長時間にわたるご議論をいただきまして、誠にありがとうございました。審議会を担当する地域産業課の課長として、皆様に深謝申し上げます。本当に、ありがとうございました。これを持ちまして、本日の審議会を閉会といたします。

本会議録は、平成25年9月4日開催の「第7回静岡市ものづくり産業振興審議会」の会議内容と同一であることを証する。

署名人 会 長 _____

委 員 _____